

消えゆくことば

時付春 ありはほ七浮

かたつむり 秋はほい 神宮はしるしあり

世はすがた 轉地ありし

あせかつと言葉は出て来り

最近 台所へ行って おこれといふ声

ふいと来ると 手すりをついて玄関まで

行く

あれ 何したとこへ行こうとしていふの

あかるい水 すすいひ こころが来たり

あかうと台所へ行き ちかう片づけをして来る

あつとあつとと ぞうだ ようなといふ

あつとあつとと していふのだ

あつとあつとと くりかえしていふ

あつとあつとと ようなをいふとしていふ

あつとあつとと といふのがあり

あつとあつとと ちゆうじとていふ

あつと

あつとあつとと ちゆうじとていふ

あつとあつとと ちゆうじとていふ

かと思つていら  
活ますよ原もむかしの言葉でなくかんたん  
の言葉で出て来るとい

合手何処し方か

そつとすね 不仲とやさしい...

しげらしくしてわらうとうしと

るつとろが去て来るとい

むつかしい言葉は平素言があして活していら

ハルバ一が素をまわして

あれしすわとて言つてきると言つと

か去つ来り それで付おひ

合手のこととむすく言と思つたう不仲

かさい ちつとと頭の中にくりかえすと

何とかうあといく

最近 記とほと味別か どのかの行々

印心 甲斐心

2021  
12/25